

奈良市民憲章

奈良は日本のふるさと。美しい自然とすぐれた文化遺産を守り、古都に住むものにふさわしい自然と誇りに生きよう。

奈良は未来をひらくまち。青少年は健康で、はつらつと、正しく強い人間になりましょう。

奈良は清浄のまち。みんなのしあわせのために、おたがいに助けあいましょう。

奈良は清静で平和なまち。旅行者にはあたたかく親切に接しましょう。

奈良はのびのびと。市民の創意で、伝統と調和のとれた新しい住みよいまちづくりをしましょう。

奈良市民だより

No. 445

市民のうごき

7月15日現在 (前月比増)
人口 295,304人 (563)
男 143,422 (339)
女 151,882 (224)
世帯数 94,081 (187)

ひざを交えて市政を語る

55年度 市政懇談会 佐保校区 より始まる

ざっくばらんに市首脳と語る

奈良市は市政の三本柱として「すべて市民本位に」「すべて夢をもって」「すべて計画的に」を掲げ、あらゆる施策を策定実施しています。民主的な市政の基本は、広く市民の声を聞き、その意を反映させて施策することにあるといわれます。市政の柱の一つに「すべて市民本位に」を高く掲げているのもそのためです。市が公職行政の重点施策として実施してきた市政懇談会は、市政担当の首脳部が各地区地元へ出向いて住民代表とヒザを交えて市政を語るというもので、市当局と市民とのコミュニケーションを濃密にし、同時に地元の自治意識を高めてもらうというのです。今年十四年目を迎える、七月二十一日の佐保地区を皮切りに十月九日まで全市十九会場にわたって市政懇談会が開かれています。

要望早く実現へ 97%が見事に解決

今年初日の佐保地区市政懇談会は、梅雨明け宣言が出て三十四度を越す暑さのなか、午後一時から佐保小学校体育館で開かれました。地元からは自治会、婦人会、民生委員、幼稚園・小学校の育友会、万年青年クラブなどから約二百人と地元出身市議会議員。市からは健田市長をはじめ木山・西田両助役、各局部長らが出席しました。

懇談会は、まず市政映画「希望の灯をともしハリー・ニュー治療」の上映で開会、岡嶋重治佐保地区自治連合会長の司会で進められました。健田市長はあいさつに先立って「まず、みなさんにおことわりして上着を脱がせてもらいますよ」と局部長らとともに上着をとり出した市民と胸襟(きょうきん)を開いて話す姿勢を示したあと「市政懇談会は市の幹部が総出で、現地で直接市民のみなさんの意見を聞かせてもらうご用聞きのようなもの、と同時に市政の報告をさせてもらうよい機会です。みなさんの協力を得て日本一住みよい奈良市をつくるため、遠慮なく意見を出してください」と述べました。このあと地元から出された建設局、教育委員会、清掃

要望早く実現へ 97%が見事に解決

部などへの身近な問題七件について、地元代表のさかんな意見や要望が述べられ、それぞれ担当の局部長が懇切に答えました。

市民の声をくみあげるこの市政懇談会は昭和四十二年にはじまり以来十四年間毎年絶え間なく続いています。これほど長期にわたり、連続して市民と市政を語り合う懇談会を開いている都市は全国

土用がいこ・参禅会に 延べ千三十人参加

暑さふっ飛ばして どて七回目

七月十九日の「土用の入り」を中心と三日間、市武道振興会と市教育委員会の共催で剣道・柔道土用がいこ土用参禅会が法蓮町鴻ノ池の市中央武道場で開かれました。この

初日の十八日は早朝六時に道場に響きわたる大太鼓の音を合図に参加者約三百人が一堂に集まり、健田市長が「奈良は柳生新陰流や宝蔵院流槍術が生まれたわが国武道発祥の地であり、また市の行政面でも人の道を盛んにするため武道の振興を進めている。土用がいこの期間は三日間で短い、市内の武道を志すものが一堂に集まってやることに意義がある」とあいさつ。このあと市長みずから剣道のけいこ着に身を固めて竹刀を握り、多くの参加者を指導しました。

的にも例は少ないとされている。過去十三年間に市政懇談会に出された要望事項は実に五千二百八十九件にのぼりました。市は時を移さずその解決に積極的な努力し、九七%が市民の希望するように解決されています。過去三年間の統計をみると、要望七百三十三件の内訳は都市計画や公共下水道工事、市道の補修などをあつかう建設局に対するものが最も多く二百八十六件(39・2%)、ついで幼稚園や小

中学校の増設、公民館や子どもたちの遊び場をあつかう教育委員会への要望が二百四十五件(33・6%)。また市の将来計画や公害、交通問題を扱う企画部に八十一件(11・1%)などが首位を占め、この三部局で83・9%にもなっています。これは市政の根幹として「やすらぎ」と夢のあるまちづくりと「教育・生涯学習の充実したまちづくり」「日本一住みよいまちづくり」に対する市民の強い意欲の表れともいえます。

暑さにも負けず熱心に意見を交わす佐保地区市政懇談会(ます健田市長のあいさつ)



土用がいこ(上) 剣道のかかりがいこ(下) 柔道の乱取り

他のめいわくになる青空駐車はやめましょう

順不同
故稱

暑さにつめげずお元気に

鍵田市長らが夏の慰問

体の不自由な人たちが戦後遺族に、夏の暑さにめげず元気に過ごしてもらおうと、市では今年も七月下旬から夏季慰問を行っています。

七月二十三日の在宅重度障害者慰問の初日は鍵田市長が市内三条大路一丁目吉田正

差別を一人一人の問題として受け止める

差別をなくす市民集会

七月は「差別をなくす月間」でした。市では「市民ぐるみで差別をなくす」と、同和問題解決のためのいろいろな事業を実施してきました。その一つとして「差別をなくす市民集会」が七月十八日午後一時から市役所正庁で開かれました。

この集会は市民の同和問題



熱心な参会者で埋まった市民集会

七月は「差別をなくす月間」でした。市では「市民ぐるみで差別をなくす」と、同和問題解決のためのいろいろな事業を実施してきました。その一つとして「差別をなくす市民集会」が七月十八日午後一時から市役所正庁で開かれました。

この集会は市民の同和問題

鍵田市長を表敬訪問

経済友好訪日代表团

中国陝西省・西安市経済友好訪日代表团（団長何承華、西南省長）の一行七人が七月十九日市役所に鍵田市長を表敬訪問しました。

この一行には蔣錫白西安市副市長も副団長として参加しており、西安市などからの贈りものを飾ってある「西安の間」に通されて「故郷に帰ったようです」と話していました。

一行は二十一日午後、奈良を離れるまで東大寺、唐招提寺などを参観したほか商工会議所関係者との交流会や県文化会館で開催中の「中国・西安拓本展」を見学しました。拓本展会場では「ふるさとの文化に奈良で接することができてうれし」と感慨無量の様子でした。



中国の経済友好代表团の人と交歓する鍵田市長・岡田議長ら

上海市医学交流先遣組

奈良を訪問

日中医学交流のため来日していた中国上海市医学交流先遣組（金家福組長）一行三人が七月十二日に来京、中国でハリ・キヌウ医師を学んだ「みどりの家診療所」の武藤医師らの出迎えを受けて市役所に鍵田市長を表敬訪問しました。鍵田市長は「奈良の医師たちが上海では大変お世話になりました」と話しました。ハリ・キヌウの技術とともに、病気を癒すという強い信念を植えてもらって喜んでいきます。ありがたいとお礼を述べました。

盛況裡におわる

中国西安古代拓本・壁面展

奈良市が日中文化交流協会、毎日新聞社と共催した「中華人民共和国西安古代金石拓本と壁面展」が県文化会館で七月十六日から三十一日までひらかれました。

一般公開日の十五日には開会式が行われ、鍵田市長や同展は奈良・西安両市の友好都市提携五周年記念事業として国内各地で開かれてきたもので奈良市が最後の開催地となりました。

出展されたのは二百六十六点におよぶ拓本・壁面模写などで顔真卿、歐陽詢、王羲之らが年代別に、書の発達の流れがよくわかるように展示されました。

これらの作品はいずれも日本書と絵画の源流をなすもので、展覧中に多くの人が会場に足を運び、日中友好と両



熱心な参観者がつづいた拓本・壁面展

慶州市との親善庭球

柏木コートでなごやかに



姉妹都市韓国慶州市との親善庭球大会が七月十九日、柏木公園内の柏木コートで開かれました。

両市が姉妹都市としてスポーツを通じていっそうの親善をはかろうと交互に毎年開催しているもので、今年で六回目。慶州市は同市内で病院を経営する申仲均さん（69歳）を団長に四十歳から七十二歳までの九選手。

前日に鍵田市長から「勝ち負けのことよりも、共に汗を流すことが第一の交流です」と励まされたこともあって、試合当日は梅雨明けを思わせるような太陽のもと、市軟式庭球協会の選手団との間に和気あいあいのプレーを展開

開、3-2で慶州チームが勝ちました。

慶州市とは硬式野球の親善試合も毎年実施しているほか、七つの市民団体が互いに姉妹クラブを提携して民間レベルでの友好交流の実をあげています。写真はその一コマに試合を進める両チーム。

地区ぐるみの非行防止活動を進めるため、市少年補導センターが中学校区ごとに組織している校区補導協議会の今年度の会長が、このほどつぎのように決まりました。

（順不同・敬称略）

春日川米沢保三（三笠）蔵之

留守火事は出さないように

留守火事は出さないように

八日会が沖繩「大和の塔」で慰霊祭

社会奉仕に取り組みたい人たちで組織する八日会（野長瀬浩会長、会員五十三人）の岡田義輝名誉顧問ら会員三十四人は七月六日から八日まで沖縄県を訪問、第二次世界大戦中沖縄で戦死・戦没した奈良県出身者の霊をなぐさめました。

一行は摩文仁（まぶん）の丘に建てられている大和の塔付近の雑草をきれいに刈り取ったあと、花と線香を供えて英霊のめい福を祈りました。

大和の塔には四百三十四柱の奈良県出身者の霊がまつられています。

日本一清掃誓う

清掃記念日8周年式典

市が「こみい」つない日本一美しいまちづくりをめざして清掃基地を設け、清掃工場を建設し、清美運動班を発足させ、七月十五日を清掃記念日として、力強い諸施策を推進して八年目を迎えました。これを記念して七月十五日午前七時から清掃基地で清掃記念日制定八周年式典を挙げる。二百七十八人の関係職員が日本一美しいまちづくりへの精進を誓いました。

鍵田市長のあいさつがあった後、永年勤続者を表彰したあと、職員たちは朝もやを蹴つていつものように、元気に清掃の任務へ出発していきま

